

筑紫路

発行

自衛隊福岡病院

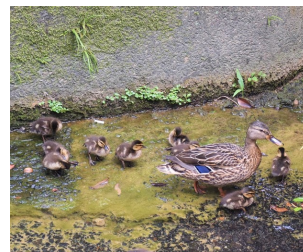
春日市小倉東1丁目61番地

TEL 092-581-0431



新病院イメージ（令和9年度完成予定）

「万里一空」

自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸将補 森 知久

令和六年夏、セーヌ川に五色の輪が翻めく中、四年に一度のスポーツの祭典、オリンピックが行われた。巴里の青空の下で躍動する選手達に、世界中の人々が心からエールを送ったことであろう。

オリンピックを「五輪」と表記したのは一九三六年の読売新聞が最初であった。オリンピックは六文字であるため、「新聞の見出しには長い、略せないか」と相談を受けていた当時の川本信正記者は、文芸春秋に掲載されていた宮本武蔵の「五輪書（ごりのしよ）」に関する記事を見て、オリンピックマークと語呂から「これだ！」と思い付いたそうである。宮本武蔵も自分の書いた兵法書の題名が、約三〇〇年の時を経て世界の祭典の当て字に使われるとは夢にも思わなかったに違いない。

一節がある。万里一空は長年鍛錬を積み重ねてきた宮本武蔵の精神的境地を表した言葉とされ、「ひとつの目標に向かって努力し続けること」「目的、目標、やるべきことを見失わずに励み、頑張り続けること」と解釈される。女子水泳の池江璃花子選手、急性リンパ性白血病を患い、生死の境を彷徨いながらも闘病し、終には念願のオリンピック出場を果たした彼女にふさわしい言葉であろう。そしてもう一人、女子体操の宮田笙子選手、今回不祥事でオリンピックの出場を辞退せざるを得なかった彼女の心の中にも万里一空があり続けることを望むのは私だけであろうか。

自衛隊福岡病院が長年頑張り続けている病院建替えに向けた準備工事が始まった。すでにテニスコートが撤去され、法面や雨水幹線沿いの木々が伐採されている。令和九年度末の新病院開院に向け順調な滑り出しといえる。一方、懸案事項も見え隠れしてきた。建設業界の人材不足、週休二日制の導入、物価上昇等であり、建設費や工事期間等に少なからず影響を与える可能性は受容せざるを得ないであろう。「万里一空」、職員や関係各位の皆様とともに新病院開院に向け一途に準備していく所存である。

最先任上級曹長
准陸尉 濱 良道

広報誌「筑紫路」

ここに記事を書き始めて二年になりました。記載を依頼されてから先輩の記事を参考に、多くの人に読んで頂けるような記事を考えて書いていました。

今回、原点を見つめて「筑紫路」が広報誌であることから配布先を確認しました。すると三／四は院外配布でした。そこで院外の人に耳寄りな情報を載せようかと思えます。

自衛隊福岡病院には十二月中旬に新しいMRI（磁気共鳴診断装置）が更新され稼働します。

MRIは磁力を使って体内を画像化する装置で、整形外科領域では首・肩・腰・膝等の診断に使われます。放射線を使わずに痛みもありません。短所として撮影時間が比較的にかかること、装置が高価で予約が取りにくいという側面もあります。

アピールポイント① 旧装置と比較して、撮影時間が短くなり約半分の時間で撮影できます。

アピールポイント② 福病は検査予約が取り易く、比較的早く撮影できることが多いです。

穴場的な自衛隊福岡病院を利用されてはいかがでしょうか。

准看山地機動訓練

准看護学院（学院長・松尾二佐）は令和六年六月十四日、第四十九期学生の第一回山地行進訓練を背振山系で実施しました。副院長の視察、最先任上級曹長の同行を受け、行進間における応急処置及び患者後送を実施しました。本訓練を通し、陸曹に必要な指揮能力及び救護能力を向上させるとともに、体力・気力の向上及び団結の強化を図ることができました。



福岡病院へようこそ！

人事往来

〈転入者〉

〈六月一日付〉

診療科
二等陸尉 鈴木 大貴 (三宿から)
二等陸尉 佐野 佑平 (三宿から)
二等陸尉 長谷川 大輝 (三宿から)

〈八月一日付〉

企画室
一等陸尉 徳丸 卓生 (北熊本から)
一等陸尉 原田 尚嗣 (市ヶ谷から)

総務課

管理課

給食課

診療科

放射線技術課

研究検査課

衛生資材部

衛生資材課

衛材資材課

看護部

准看護学院

三等陸尉

二等陸尉

一等陸尉

二等陸尉

三等陸尉

城井美穂子 (熊本から)
西川 未来 (春日井から)
菅原美也子 (真駒内から)
下水流文乃 (健康から)
脇田 千夏 (健康から)
氏家 憲吾 (伊丹から)
山本 善行 (熊本から)
田中 敬三 (仙台から)
近藤 陽子 (三宿から)

田中 博己 (飯塚から)
有馬 隆史 (健康から)
平野 孝雄 (三宿から)
堀田 幸伸 (大村から)
橋口 優 (三宿から)
山口 直毅 (三宿から)
馬淵 春菜 (三宿から)
立川 誠四郎 (三宿から)
井本 良敬 (三宿から)
浅野 幸太郎 (三宿から)

五十嵐 香織 (島松から)
有田 公博 (那覇から)
立夫 (奄美から)
武田 武士 (福岡から)
馬淵 陽一 (朝霞から)
尚嗣 (市ヶ谷から)

徳丸 卓生 (北熊本から)
原田 尚嗣 (市ヶ谷から)
武田 武士 (福岡から)
馬淵 陽一 (朝霞から)
尚嗣 (市ヶ谷から)

武田 武士 (福岡から)
馬淵 陽一 (朝霞から)
尚嗣 (市ヶ谷から)

馬淵 陽一 (朝霞から)
尚嗣 (市ヶ谷から)

鈴木 大貴 (三宿から)
佐野 佑平 (三宿から)
長谷川 大輝 (三宿から)

病院での勤務 お疲れさまでした。



〈八月一日付〉

建替準備室
二等陸佐 木原 好浩 (久留米へ)

総務課
三等陸佐 村田 国成 (朝霞へ)
三等陸尉 奥村 耕二 (北千歳へ)
陸曹長 中野 功 (福岡へ)

管理課
二等陸曹 西野 奨太 (目達原へ)

診療科
二等陸佐 葉柴 崇文 (久留米へ)
一等陸尉 有井 大倫 (三宿へ)
一等陸尉 岡本 知也 (三宿へ)
一等陸尉 永井 悠太 (三宿へ)

放射線技術課
三等陸佐 衛藤 利弘 (目達原へ)
陸曹長 橋野 誠 (小郡へ)

衛生資材部
一等陸尉 塚田 剛 (三宿へ)

衛生資材課
二等陸佐 片桐 彰男 (札幌へ)

研究検査課
二等陸曹 高木 麻里 (熊本へ)

看護部
一等陸尉 横山めぐみ (所沢へ)
一等陸尉 田中 靖子 (大村へ)
一等陸尉 山崎千亜希 (飯塚へ)
二等陸尉 井本千香子 (那覇へ)
二等陸尉 石岡 星香 (那覇へ)
二等陸尉 井料田陽香 (相浦へ)
三等陸尉 福田わか (健康へ)
三等陸尉 米川 麻美 (丘珠へ)

〈転出者〉

准看護水難救助訓練

准看護学院(学院長・松尾二佐)は令和六年七月二十三日から二十四日の間、第四十九期学生の水難救助訓練を実施しました。病院長の視察を受け、晴天の中、海での溺者救助法、消防夫搬送を演練しました。水難救助法の知識・技術を概ね習得し、その重要性和難しさを学ぶことができた。水泳を苦手とする学生もいましたが、助け合いながら全員で訓練をやり遂げました。



献立紹介 ごぼ天うどん



福岡うどんといえは「ごぼ天うどん」です。当駐屯地の「ごぼ天うどん」は、歯ごたえの良いうどん、いりこ・昆布・鰹によるこだわりのトリプルだし、甘辛く炊いた牛肉の組み合わせが食欲をそそる大人気の一品です。

樹木等の撤去



雨水幹線の改修



四月から準備工事を行っています。工事内容は雨水幹線の改修、樹木・構築物の撤去等です。地域の皆様にはご迷惑をおかけします。がよろしくお願ひします。

建替工事に関するお知らせ

#4